

第54回京都市廃棄物減量等推進審議会

摘録

【日時】平成26年7月1日（火） 午後1時00分～午後3時00分

【場所】京都ガーデンパレス 2階 鞍馬

【出席委員】岩谷委員，宇津委員，郡嶋委員，才寺委員，酒井委員，佐野委員
新川委員，高田委員，高月会長，富永委員，内藤委員，原田委員
藤田委員，宮地委員，森田委員，山内委員，山川委員，山崎委員
山田委員

【欠席委員】崎田委員

I 開会

（事務局）

本日は，今年度初めての審議会ということで，まずは委員の皆様には，昨年度のごみ量の状況を御報告させていただくとともに，昨年度に地域の皆様や京都環境事業協同組合の皆様の御協力の下，実験を進めてきた「雑がみ」の分別について，新たな取組を開始しているので，御報告させていただきます。

そして，本年2月に諮問させていただいた，「今後のごみ減量施策の在り方」について，「ごみ減量施策検討部会」と「東部山間埋立処分地延命策検討部会」の2つの部会での検討内容を御報告させていただき，御審議賜りたいと考えている。

（山田局長あいさつ）

本日は，大変お忙しい中，また大変暑い中御出席いただき，御礼申し上げます。審議会の開催に当たり，一言御挨拶を申し上げます。

京都市のごみ量は，ピーク時の平成12年度には82万トンもあったが，家庭ごみ有料指定袋制や業者収集ごみの透明袋制など，市民・事業者の皆様の御理解，御協力により着実に減少し，後ほどご報告させていただくが，現在，42%減の47万トンにまで削減することができた。その結果，かつて5工場体制であったクリーンセンターも3工場体制に縮小することができ，1工場あたりの建設費約400億円，年間運営費約10億円の削減を，また，ごみ収集運搬経費も年間約40億円削減することができている。しかし，環境にやさしいライフスタイルやビジネススタイルの転換や，京都という内陸都市の課題である最終処分場の長期活用をはじめ，環境負荷の低減，持続可能な循環型社会の構築に向けて，目標としている「ピーク時からのごみ半減」を達成するまでには，まだまだ道半ばである。これまでの成果に満足することなく，取組を加速していかなければならないと思っている。

そのため，本年2月に，「今後のごみ減量施策の在り方」について，審議会に諮問させていただき，2つの部会を設置し，御議論いただいているところである。本日の審議会では，これら部会の検討内容について御意見をいただき，今後の答申に向けた忌憚のない活発な御議論をお願いしたいと思う。昨年，京都が先頭になって取り組んで「和食」が，ユネ

スコ無形文化遺産に登録された。京料理に見られるバランスのとれた食文化は、京都の長い歴史と四季折々の自然の中で、食材を無駄なく大切に使う「始末」や「もったいない」という意識から生まれたものでもある。どうか、皆様方におかれては、このように、良き伝統・先人からの「学び」や、先を見る「先見」と、そして先に進む「先進」、こういった視点で、京都が全国をリードする、京都に相応しい、具体的で実効性のある新たなごみ減量の仕組みづくりや、東部山間埋立処分地の延命策について御議論いただき、お力添えいただきますようお願いして、御挨拶とさせていただきます。

（高月会長あいさつ）

本日はお忙しい中、お集まりいただき御礼申し上げます。先ほど山田局長から説明があったが、今回の審議会では、既に議論を進めている2つの部会での検討結果を報告させていただきます、皆様に御審議いただくこととなっているので、よろしくお願いします。

Ⅱ 報告

- 1 平成25年度のごみ量
- 2 「雑がみの分別・リサイクル」の全市展開

（事務局）

資料1（平成25年度のごみ減量について）、資料2（京都ならではの「雑がみの分別・リサイクル」の全市展開について）に基づき説明

<意見なし>

Ⅲ 議事

- 1 「今後のごみ減量施策の在り方」についての検討スケジュール

（事務局）

資料3（「今後のごみ減量施策の在り方」についての検討スケジュール）に基づき説明

<意見なし>

- 2 ごみ減量施策検討部会における検討内容

（事務局）

資料4-1（第1回ごみ減量施策検討部会資料）、資料4-2（第1回ごみ減量施策検討部会意見概要）に基づき説明

(酒井委員)

新たなごみ減量施策の検討ということで、早急に課題と施策の洗出しを行っていただき、6月2日に第1回目の部会を開催させていただいた。非常に活発に御審議いただき、方向性としては、御説明いただいたとおり、2R推進ということで、京都の価値観やライフスタイルといったことを打ちだしていく方向がよいのではないかという、共通の認識ができたのではないかとみている。

加えて、冒頭に山田局長から説明があったが、39万トンの減量目標への道筋を十分に視野に入れることができればと思っている。そのあたりの定量的な見通しも出しながら、今後、見せていけるような形にしていきたいと思う。さらに、ものづくりや暮らし方のメッセージ性が非常に重要であるという認識で、審議を進めていきたいと思うが、具体的施策の数が多過ぎるとみており、もう少し、焦点をはっきりさせて絞り込んでいくということ、今後の議論の中で一緒に考えていきたいと思っている。

(郡嶋委員)

非常によくまとめられていると思う。細部に渡って、誰に対してどういうことを実施すべきかということ、ミクロ的な形での取組の方向で検討していく方向性はいいと思う。行政はいつも、3Rという言い方をしているが、消費者にとっては、購入・消費・廃棄の段階での話になる。その視点で言うと、廃棄の段階での施策が非常に多いと思う。市民にとって2Rが見えにくいというのは、そういうところもあると思う。答申に向けてはこれでもいいと思うが、市民に対しては、購入・消費・廃棄の段階でどういう取組があるのかという示し方にさせていただいた方が、非常に分かりやすい。小売の段階においては、非核三原則ではないが、基本的に「売らない・買わない・持ち込まない」という形を考えて、また、売らないだけでなく、作らないという考えから言うと、酒井先生が仰ったように、ものづくりの中で、過剰なごみになるようなものは作らないという、環境配慮型の製品を推進していただくようなことも必要であると思う。また、消費者に対しては、どういう行動がごみを減らすのか、どういう商品を買ったら、よりごみが少ないかというような情報を出していくことが必要である。購入の段階での取組は、広い意味では物の作り方にも関係するが、小売店と消費者の間の結節点での連携した取組をどう考えるのかということが重要である。

消費の段階では、例えば食べ残しをしないという行動をどう推進していくかなど、過剰消費に対する食の在り方を考える必要がある。廃棄の段階においては、ここに書かれているような取組になると思う。家庭向けのあらゆるステージの中では、それぞれが多様に繋がっており、日常の行動とそこから出るごみとの関係が出てくるので、そこを強調して書いていただければ、資料に書かれていることがもう少し整理できるように思う。3Rという言い方を、もう少し消費者に分かりやすい形にすることも検討していただきたい。

小売の段階で言うと、カルフォルニアのバークレーでは、リサイクルの前のリサイクルで「プレサイクル」という言葉を使っているので、京都におけるプレサイクル運動というカタチで進められてもいいのではないかと思う。また、小売店と消費者との連携という形で考えると、部会での意見にもあったような、「おもてなし」でもいいのではないかと思う。そのように、少し同じことを言っているが、切り分けたような形で、何か用語の転換を考

えていただけたら、より消費者に分かりやすいのではないかなと思う。

事業系についてはまだ発生抑制の段階まではいってないと思うので、どちらかというと、分別・リサイクル中心でいいと思う。気になるのが、せっかく民間のリサイクル施設があるにも関わらず、民業圧迫の形で行政の施設があるので、そこは是正しなければならないと思う。民間が頑張っても、それを行政が邪魔をしているのでは、全体の方向性としてはよくないので、ぜひともそこは是正していただきたいと思う。

（森田委員）

「おもてなし条例」の意見に賛同する。前回の審議会でも申し上げたが、全国に対して、観光客も含め、市民に向けて、レジ袋いりませんカードを作り、希望する観光客や市民に対して発行し、それもおもてなしの一つとするような取組も入れていただけたらと思う。

また、地域ごみ減の方など、ごみの減量に取り組んでおられる方の話を聞くと、ごみが少ない街は安全な街であるという意識を持っておられる方が多いことに気付いた。条例の中にも、ごみ減量というものは安全な街づくりにも寄与するということを、何か取り入れていただけないかなと思う。

（才寺委員）

商工会議所では、本年5月に第3期環境行動計画を策定し、本業の中で取り組む環境経営の推進を盛り込んでいる。先ほども出た「おもてなし」条例についても、実際は必要以上に過剰な包装をすることが、京都におけるおもてなしの姿となっている面も否定はできないと思うが、条例により、京都のおもてなしはこうであるという形が発信できて、京都市民が、環境に配慮したおもてなしを進んで実践してもらえるようなことができれば、京都発の条例として、いい方向に向かっていくのではないかなと思っている。

（宮地委員）

今後、チェーンストア協会としても意見等を勘案しながら進めていきたいと思うので、よろしくお願いします。

（山崎委員）

保健協議会の総会のときに、エコまちステーションの方に来てもらい、雑がみとプラスチック製容器包装の分別についての勉強会をさせていただいたが、反響がすごく大きかった。7月と8月にも地域でのイベントがあるので、そのときにまた、エコまちステーションの方にお越しいただき、啓発活動をしていただくように、準備を進めているところである。

直接ごみ減量には関係ないかもしれないが、先日、一般市民の方が、指定ごみ袋を買う時に、外袋には何リットルということが書いてあるが、中の袋だけを取り出してしまっておくと、いざ使おうというときに、それが何リットルというのが見にくいことを言っておられた。畳んだ時に外側になるところに、何リットルというのが分かるように書いておいて欲しいとのことであったが、この畳み方を反対にしたらいいいのではないかなと思ったことがある。

また、先ほどからこの資料の説明をしていただいているが、役員会の中で、この資料を抜粋して使用させていただいてもよいか。

（事務局）

本日の審議会資料については、会合が終わったら直ちに公表するので、ご自由に、積極的に御利用いただけたらと思う。

また、資料について補足させていただくが、資料４－１の施策の例は幅広くに書かせていただいている。小さな小売店などでは、こんなことはできないなどという話も入っていると思うので、御利用の際にも御配慮いただき、本審議会でも御意見をいただけたらと思う。

（新川委員）

職業上耳に残るのが料金改定の話であるが、部会でも言わせてもらったが、４月に料金改定を実施したばかりであり、相当苦勞してやってきたので、そういう議論ばかりされたら辛いという思いがある。

また、持込ごみの搬入状況のところでは、京都市の手数料が安いと、民間リサイクル施設に搬入するインセンティブが働かないとのことであるが、我々からしたら、京都市の搬入手数料は高いと思っている。民間の施設は累進性ではないが、京都市の場合は累進性となっているため、１回の搬入量が多いと割高になる。そうすると、複数回に分けて持って行けば、安いということになるが、それではCO₂の問題もあるため、民間に持って行くということになる。これを見ていると、京都市が安いからインセンティブが働かないととれる。

また、事業所からの缶・びん・ペットボトルの排出が多いという説明があったが、そんなにひどいのかという疑問もある。組合としても、排出事業者の方に、分別の徹底や発生抑制を理解してきちんとやってもらうように、頑張ってお願いをしているが、我々だけでは限界があると感じている。値段を上げればごみが減るという発想は切り替えていただきたい。

（高田委員）

この部会はとても範囲が広く、発言をするのも大変であったが、インパクトがある形で、シンボリックな部分を取り上げ、発生抑制を意識しながら、京都スタイルということ意識してやっていこうという話にはなっているのではないかとと思っている。あとは、それぞれのところで、やる気を出すにはどうしたらいいのかというところをまた議論しながら、主婦として、市民として、こういう施策ならやりやすいというような意見を、具体的に発言していきたいと思っている。

部会では、トレイの話をしたが、やはり主婦や市民だけではできない話であり、企業の方や、小売店の方と一緒に協力をし、色々な実験をしながら、もっと身近な形でやる気を起こさせるような施策を考えられたらと思う。

（高月会長）

最近やっと雑がみの取組が本格化してきたが、実際にどのくらいの雑がみが回収されているのかなど、定量的なデータを事務局側が把握するようなすべはあるのか。民間の回収業者や、コミュニティで回収してもらうようにやっておられるが、それが各々どのくらいの効果があったのかという検証が定量的にできるのかということを気にしている。結果的には、ごみの中の紙ごみが減っていればいいが、こういう形でそれが進んでいるということが探れたらいいと思う。

（事務局）

雑がみの分別でどれくらいごみが減るのかという概ねの推測では、燃やすごみに入っている雑がみ約3.4万トンのうち、4割にあたる約1.4万トンの削減ができるのではないかと考えている。実際にどれくらい取組によって減っているかというところは、まず、コミュニティ回収については、年度末に各団体から御報告いただくので、それは集計できる部分である。最終的には、細組成調査の結果を踏まえて、どれくらいの雑がみ、紙ごみの割合になるのかというところを検証していきたいと考えている。更に、雑がみは古紙問屋に行くので、古紙問屋の組合の方からも、どの程度結果に出てきたのかという情報もいただきながら、あくまで推計というかたちでの把握の方法にはなるが、掘んでいきたいと思う。

（高月会長）

施策を打っていくときには、どれくらいそれが有効に働いているのかということを把握しながらやっていくことが重要であると思うので、またよろしくお願いします。

（高田委員）

私の学区も4月からコミュニティ回収で雑がみの回収をやっているが、ごみはこれで3割くらいはなんとなく減るような感覚はある。しかし、雑がみの回収をするときには、わかりにくいということがよく言われる。説明会をしようという話になったときに、何か資料がないか、エコまちステーションの方に聞いたところ、今日の資料2についているチラシをいただいたことがあった。このチラシ自体は、学区での説明会では使いにくいところがある。まず第一に、雑がみの例のところで、OA紙が何か分からないという声がある。例として出すのであれば、分かりやすいものにしていきたい。次に、出してはいけないものとして、例えば防水加工、コーティング加工、感熱紙とあるが、これでは主婦の方は分からない。身近なものを具体的に出していただいた方が、分かりやすいと思う。さらに、雑がみの排出先をどうしたらよいかというときに、学区毎にコミュニティ回収を実施している場所が分かればいいが、このチラシではそれが分からない。学区での学習会などでは、このチラシは使いにくいものであるので、そういう場合には、情報を届けたい人に、届けたい情報を、分かりやすい形で出していきたいと思う。

（高月会長）

雑がみがわかりにくいという声は多いようである。よく言われている、新聞、ダンボー

ル以外は全部雑がみという区分けでやるというのも一つの手であると思うが、それでは回収業者が持って行ってくれないのではないかと、という不安感もあろうかと思う。

（事務局）

雑がみが分かりにくいという意見をいただいたが、まち美化事務所やエコまちステーションの職員が地域に出向かせていただき、実際に説明をさせていただいている中で、より分かりやすい周知啓発を意識していきたいと思う。郡嶋先生からも、消費者に分かりやすい取組という話があったが、やはり、条例や計画も重要であるが、市民、消費者の方に分かっていたくということが一番重要な話であるので、その辺は肝に銘じて取組を進めていきたいと思う。

（原田委員）

消費者に対して、分かりやすく周知していただくことは大切である。雑がみもそうであるが、例えば、ダンボールを出すときには、シールが貼ってあるのはよいのかなど、迷うところはすごく多い。また、トレイでもシールが貼ってあるものは出してよいのか迷う。分別収集が始まって結構経っており、私たち主婦もそれに沿って分別を行っているが、それでも毎回迷うことがいっぱいある。先日も、長い傘を処分するのにどう出したらよいのか分からなかった。もちろん、京都市に電話で聞いたら分かるが、そういう分別方法の普及のための広報の仕方が、なかなか忙しい人までは徹底していないということを感じた。リユースできる古着の回収も京都市でやっていただいているが、刺繍の入ったスーツはダメであるなど、迷うことが多くあった。分別するときは、雑がみだけでなく、全てにおいて迷うことが多いので、どういう方法でそれを皆さんにお知らせしたらよいのかというのはなかなか分からないところではあるが、何年経っても、ごみの出し方に迷っている方が多いということは、分かっていたきたいと思う。

（森田委員）

先ほど郡嶋先生も仰ったが、雑がみについては、ものづくりの段階から、ごみ減量やリサイクルについて製造業者の方に考えてもらうよう、伝えていくことは重要であると思う。雑がみに金の加工をすると、リサイクルの機械に悪さをするというのを、ある講義の中で聞いたことがある。それ以来、金の加工をしたものは、雑がみに入れないようにしている。そういった指導も、製造側にしてもらえたらいいと思う。それこそ、京都らしい、雑がみの知識のあるものづくりになるのではないかなと思う。そういったことも、ものづくりに反映して欲しいと思った。

それから関係ないが、資料４－１の燃やすごみの推移の部分で、核家族の進行により世帯数が増加し続けるところがあるが、実は核家族化よりも進行しているのが、単身である。単身は４割に迫ろうとしているので、それも配慮いただきたいと思う。

【後日追加意見】

雑がみについては、紙袋に入れて出すと、雑がみ以外の異物が混入される恐れがあるため、紙袋で出すことを禁止しているところもあるようである。そういう意味でも、出したものが見えるような形で、できればビニールひもでなく、紙ひもで縛って出していただくことを推奨していただきたい。

（藤田委員）

私たちの地域でも集団回収を実施しているが、廃油の回収から始まり、１０年以上になる。新聞については、新聞屋さんが持ってきてくれる袋に入れており、雑がみについては、回収業者さんからもらった雑がみ保管袋を使用して出している。現在、私たちの地域では、古紙と雑がみの他にも、空き缶と古着も回収していただいている。毎月、日にちを決めてやっており、地域の方はそれを徹底しているが、マンションは個人的にやっておられるところもあり、いいかげんな印象もあるので、女性会としても、もう少し接近していかなければならないと思っている。１８～２０の町内があるが、よく集まるのがスーパーの前である。スーパーとしても、ついでに買い物をしてもらえるメリットがあるので、よくやっていただいている。ごみの出し方については、地域の方にたくさんの資料を見てもらうのは大変であると思うので、そのような直接的な触れ合いも大事であると思う。

また、昔は買い物したものを新聞紙に包んだりしていたが、今はもったいないと思うようなトレイもたくさんあるので、それをなんとかできないかと思う。

エコバッグについても、実際のところは半分の方も持って来られていないと思う。エコバッグを持ってきたら、ポイント還元してくれるスーパーもあるが、やはり、多くの人は、レジ袋がもらえるところに買い物に行かれるように思う。

（新川委員）

確認であるが、雑がみの袋は業者ではなく京都市が作っているのではないか。また、ごみ減量ハンドブックは全戸配布しているのではないか。広報が全然できていないという意見があったが、ごみの出し方についてはハンドブックを全戸配布しており、周知できているという認識である。

（事務局）

雑がみの保管袋は、平成２４年度に京都市が作って配布したものである。あくまで保管袋なので、スーパーや百貨店の紙袋を入れて、それだけを取って排出していただくものである。在庫はまだあるので、地域での活動に使われる場合は言っていたきたい。

ごみ減量分別ハンドブックは、平成２２年度に作り、その後は毎年１回、追記版という形で市民しんぶんの挟み込みを発行している。現在、新しいハンドブックを作成する準備をしているので、皆様にお届けできるのは来年度になるが、その際も全戸配布というかたちでやらせていただき、しっかりと情報をお届けしたいと思う。今日も御意見があったが、市民に分かりやすいというところにポイントを置いて、作成を進めていきたいと思う。

３ 東部山間埋立処分地延命策検討部会における検討内容

（事務局）

資料５－１（第１回東部山間埋立処分地延命策検討部会資料）、資料５－１（第１回東部山間埋立処分地延命策検討部会意見概要）に基づき説明

（高月会長）

山川委員は部会に入られているが、何か補足はあるか。

（山川委員）

いろんな方法の意見が出されたが、意見概要のところをよくまとまっているので、特に補足することはない。

（高月会長）

延命策検討部会は予定どおり、１２月までやられるということである。また、ごみ減量部会は前倒しでまとめ、９月に答申というスケジュールになっている。今後の部会での検討内容については、また本会で御報告いただきたいと思います。

<意見なし>

Ⅳ 閉会

（事務局）

今回は９月上旬に開催する予定なので、よろしくお願いします。